

領域「介護」

領域の目的

1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術を習得する。
3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。
6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

授業科目	介護の基本 I			授業形態	講義	単位数	4 単位
担当者	金須雄一						
ナンバリング	WFM3C03	開講時期	前期	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・介護福祉の基本となる理念が説明できる。 ・介護福祉の役割と機能について説明できる。 ・介護福祉士の倫理について説明できる。 ・自立に向けた支援について説明できる。 ・介護を必要とする人の状況について説明できる。 ・「自分で考え実践できる能力」(1)「現状をしっかりととらえることができる」能力を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	介護福祉とは①				
		内 容	介護の成り立ちから介護福祉の理念を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護のイメージを整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 2 回	テーマ	介護福祉とは②				
		内 容	介護の成り立ちから介護福祉の理念を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：前回の授業の介護の成り立ちから変化した介護イメージを整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 3 回	テーマ	介護福祉とは③				
		内 容	介護の成り立ちから、現在の介護の理念を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：これまでの学びから、各自の介護観を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 4 回	テーマ	介護福祉の基本となる理念				
		内 容	介護の基本理念について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：各自の介護観と授業での学びから、介護理念を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 5 回	テーマ	介護福祉士の役割と機能①				
		内 容	介護福祉士を取り巻く状況から、介護福祉士の役割を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護福祉士についてイメージを整理しておく。				

		学修	復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第6回	テーマ	介護福祉士の役割と機能②
		内 容	介護福祉士を取り巻く状況から、地域や施設、在宅の場、介護予防や看取り、災害時の対応等、幅の広い介護福祉士の機能を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：介護福祉士が行うべき業務についてのイメージを整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第7回	テーマ	社会福祉士及び介護福祉士法
		内 容	社会福祉士及び介護福祉の設立から現在までの改正等について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：社会福祉士及び介護福祉士法の概要を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第8回	テーマ	介護福祉士養成カリキュラムの変遷
		内 容	介護福祉士養成カリキュラムの変遷から、求められる介護福祉士像を探る。
		授業時間外学修	予習：どのような介護福祉士が求められるか、整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第9回	テーマ	介護福祉士の倫理①
		内 容	倫理とはどのようなものか、保育士養成課程で学んだことを振り返り確認する。
		授業時間外学修	予習：保育士課程で学んだ倫理を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第10回	テーマ	介護福祉士の倫理②
		内 容	介護における専門職能団体の倫理綱領から、介護福祉士の倫理とは何かを学ぶ。
		授業時間外学修	予習：介護福祉士の倫理について考えられる倫理的視点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第11回	テーマ	自立に向けた介護①
		内 容	介護場面における「自立」の考え方を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：保育士養成課程で学んだ「自立」の視点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第12回	テーマ	自立に向けた介護②
		内容	ICF の視点から、介護場面における「自立」の視点を考える。
		授業時間外学修	予習：前回の授業から、介護場面における「自立」の視点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第13回	テーマ	自立支援と環境整備
		内 容	個々の状況に応じた自立支援を可能にするための環境の整備を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：バリアフリーについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第14回	テーマ	介護予防とリハビリテーション
		内 容	介護予防の考え方と自立支援の関連性について学ぶ
		授業時間外学修	予習：介護実習Ⅰ―①から、介護予防に関連する事例を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第	テーマ	まとめ

	15	内 容	これまでの授業から介護福祉の基本理念を学ぶ。
	回	授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：後期の学びに向けた学習課題を整理しておく。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「自分で考え実践できる能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の金須は、介護老人福祉施設、在宅介護に 17 年間介護福祉士として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護の基本 I			授業形態	講義	単位数	4 単位
担当者	金須雄一						
ナンバリング	WFM3C03	開講時期	後期	授業時間数	－ 時間	授業回数	－ 回
必修・選択	介護福祉士受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・介護サービスの基本視点を説明できる。 ・自立支援を説明できる。 ・求められる介護福祉士像を意識して学んでいる。 ・「学び続け成長し続ける能力」 (1) 「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して主体的に学ぶことが出来る」能力を身につける						
授業計画	第16回	テーマ	介護を必要とする人の理解①				
		内 容	「生活とは何か」を足掛かりに、人間と生活について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：「生活」とはどういうことかについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第17回	テーマ	介護を必要とする人の理解②				
		内 容	介護を必要とする人の「暮らし」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：「生活」と「暮らし」についての関係について整理しておく 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第18回	テーマ	介護を必要とする人の理解③				
		内 容	「その人らしさ」と「生活ニーズ」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：「その人らしさ」とはどういうことかについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第19回	テーマ	介護を必要とする人の理解④				
		内 容	介護を必要とする人の生活のしづらさについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：「生活のしづらさ」とはどういうことかについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第20回	テーマ	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①				
		内 容	生活を支えるフォーマルサービスについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護場面において「生活を支える」とはどういうことかについて整理しておく。				

			復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 21 回	テーマ	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②
		内 容	生活を支えるインフォーマルサービスについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：制度上「生活を支える」とはどういうことかについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 22 回	テーマ	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③
		内 容	「地域連携」について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：フォーマルサービス・インフォーマルサービスについて、しっかりと整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 23 回	テーマ	自立に向けた介護③
		内 容	自己決定・自己選択の重要性について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：実習で目に触れた自己決定・自己選択の場面を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 24 回	テーマ	自立に向けた介護④
		内 容	事例を通して自立に向けた介護の視点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：前回選択した事例に対しての自立の視点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 25 回	テーマ	介護従事者の安全①
		内 容	健康管理の意義と目的について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：日頃健康管理で気を付けている点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 26 回	テーマ	介護従事者の安全②
		内 容	こころの健康管理について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：日頃、こころの健康管理で気を付けている点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 27 回	テーマ	介護従事者の安全③
		内 容	身体の健康管理について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：日頃、身体の健康管理で気を付けている点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 28 回	テーマ	介護従事者の安全④
		内 容	労働環境の整備について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：「労働環境」とはどういうことか考えておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 29 回	テーマ	求められる介護福祉士像
		内 容	介護福祉士として求められる介護福祉士像について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：自分はどんな介護福祉士を目指すか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第	テーマ	まとめ

	30	内 容	介護福祉士としての自覚を明確にする。
	回	授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：介護福祉士としての自覚をノートに記録しておく。
	第 31 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「学び続け、成長し続ける能力」(1) 獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(一日 1.5 時間)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の金須は、介護老人福祉施設、在宅介護に 17 年間介護福祉士として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護の基本Ⅱ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	伊藤和雄						
ナンバリング	WFM1C04	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	個人が自立した生活を営むということを理解するために、個人、家族、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会との関わり、自助や公助にいたる経過を理解したい。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・介護サービスの概要を説明できる。 ・介護サービス提供の場の特性を説明できる。 ・諸制度の理解及び他職種、他機関との連携を説明できる。 ・対象者の生活の場としての地域という視点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な考え方を説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	介護を必要とする人の理解				
		内 容	私たちの生活と地域との関係を理解する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。				
	第2回	テーマ	権利擁護①				
		内 容	基本的人権のおもな規定と判例を理解する。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。				
	第3回	テーマ	権利擁護②				
		内 容	成年後見制度と日常生活自立支援事業を理解する。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。				
	第4回	テーマ	権利擁護③				
		内 容	苦情解決、第三者評価事業のしくみを理解する。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。				
	第5回	テーマ	権利擁護④				
		内 容	高齢者虐待、児童虐待、配偶者暴力、障害者虐待防止法を理解する。				

	回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 6 回	テーマ	権利擁護⑤
		内 容	虐待の対応、関係機関の役割を理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 7 回	テーマ	地域共生社会①
		内 容	インクルージョンを理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 8 回	テーマ	地域共生社会②
		内 容	バリアフリー、自立支援を理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 9 回	テーマ	地域共生社会③
		内 容	共生型サービスの対象サービスを理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 10 回	テーマ	地域包括ケア①
		内 容	地域密着型サービスの機能と役割を理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 11 回	テーマ	地域包括ケア②
		内 容	地域支援事業の機能と役割を理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 12 回	テーマ	地域包括ケア③
		内容	地域包括支援センターの機能と役割理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 13 回	テーマ	地域包括ケアシステムのしくみと地域共生社会
		内 容	地域包括ケアシステムのしくみと地域共生社会の考え方を理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第 14 回	テーマ	協働する多職種の機能と役割
		内 容	協働の意味と多職種の機能と役割について理解する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめておく。
	第	テーマ	まとめ

	15	内 容	これまでの授業の振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。
	回	授業時間外 学修	予習：既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習：疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	「介護福祉士国試ナビ」（中央法規出版） 「介護福祉士養成講座全巻」（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	講義内容の理解を確認するレポートにより、領域「人間と社会」・「介護」に関する理解の程度(60%)、 「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分)、復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)。		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、介護老人福祉施設で 26 年間介護業務、相談援助業務、介護計画作成等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいので適宜応じる。		

授業科目	介護の基本Ⅲ			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	佐藤沙弥香						
ナンバリング	WFM1C05	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	リハビリテーションの意義や目的を理解し、介護現場においてその積極的な必要性を理解し、実技中心の授業を行う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・自立に向けたリハビリテーションの意義や方法等について説明できる。 ・高齢者・障害者介護におけるリハビリテーションの視点を説明できる。 ・介護現場で実際の対応技術、方法を説明できる。 ・「自分で考え実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」介護能力を身に付ける。						
授業計画	第1回	テーマ	自立に向けた介護とリハビリテーション①				
		内 容	個々の状態に応じた自立を支援するための意義について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読して、授業のイメージを描いておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	自立に向けた介護とリハビリテーション②				
		内 容	個々の状態に応じた自立を支援するための視点、方法を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：「自立」とは何かについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	自立に向けた介護の実践(実技)①				
		内 容	人間の身体の動きから、身体の動きと働きについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：身体部位の名称を整理しておく。①(上半身) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	自立に向けた介護の実践(実技)②				
		内 容	人間の身体の動きから、障害を持つ人の身体の動きと働きについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：身体部位の名称を整理しておく。②(下半身) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第5回	テーマ	自立に向けた介護の実践(実技)③				
		内 容	「座位と立位」① (座位から立位への移動)				
		授業時間外学修	予習：座位から立位への移動手順についてテキストを参照にして整理しておく。				

		学修	復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第6回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)④
		内 容	「座位と立位」②（立位から座位への移動）
		授業時間外学修	予習：立位から座位への移動手順について、テキストを参照にして整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第7回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)⑤
		内 容	杖歩行①(平地)
		授業時間外学修	予習：「平地」での杖歩行についての移動手順について、テキストを参照にして整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第8回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)⑥
		内 容	杖歩行②(階段・段差)
		授業時間外学修	予習：「階段・段差」での杖歩行についての移動手順について、テキストを参照にして整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第9回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)⑦
		内 容	ベッドから車いすへの移動
		授業時間外学修	予習：「ベッドから車いす」への移動手順について、テキストを参照にして整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第10回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)⑧
		内 容	車いすからベッドへの移動
		授業時間外学修	予習：「車いすからベッド」への移動手順について、テキストを参照にして整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第11回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)⑨
		内 容	「食事」場面におけるリハビリテーションの実際
		授業時間外学修	予習：「食事」場面における留意点について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第12回	テーマ	自立に向けた介護の実際(実技)⑩
		内 容	リハビリテーションと介護予防
		授業時間外学修	予習：「介護予防」の観点について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第13回	テーマ	リハビリテーションと余暇活動①
		内 容	レクリエーション活動の企画・立案
		授業時間外学修	予習：介護実習Ⅰ-①で、施設で実施していたレクリエーション活動を振り返り、レクリエーション活動の視点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートまとめる。
	第	テーマ	リハビリテーションと余暇活動②

	14 回	内 容	前回グループで企画、立案した内容についてプレゼンテーションを行う。
		授業時間外 学修	予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業内容を振り返り、プレゼンテーションを実施してみてもの課題をノートにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ 福祉用具の活用の目的と留意点
		内 容	介護ロボットを含め、自立支援を助ける福祉用具について理解し、自立支援とリハビリテーションの関係性を理解し、対象者の能力に応じた福祉用具を選択し、活用できる知識と技術の視点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：後期の学びに向けた学習課題を整理しておく。
	第 16 回		実技試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ・生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士国家試験対策全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	実技試験等により、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「自分で考え実践できる能力」(2)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	実技試験終了後に、授業全体講評と実技試験の講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、療育訓練センター、病院、介護老人福祉施設等で理学療法士として従事している。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室で質問を受け付ける。		

授業科目	介護の基本Ⅳ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	金須雄一						
ナンバリング	WFM2C06	開講時期	後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	介護実習を通して得た知識、技術を振り返り整理しながら、 ・介護福祉の基本となる理念が説明できる。 ・介護を必要とする人を理解し、自立した支援の視点を説明できる。 ・傾聴技術、観察技術の視点を説明できる。 ・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	介護を必要とする人の理解⑤(その人らしさ)				
		内 容	介護を必要とする生活を支援するという観点から、「その人らしさ」とは何かについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護を必要とする人の理解⑥(高齢者の暮らし)				
		内 容	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、「高齢者の暮らし」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：高齢者の「在宅での生活、施設での生活」の違いについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	介護を必要とする人の理解⑦(障害者の暮らし)				
		内 容	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、「障害者の暮らし」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：障害者の「在宅での生活、施設での生活の違い」について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	介護を必要とする人の「身体」の理解				
		内 容	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、介護を必要とする人の「身体的」の特徴について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護を必要とする人は、「日常生活にどのような支障をきたすようになるか」				

		学修	整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第5回	テーマ	介護を必要とする人の「心」の理解
		内 容	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、介護を必要とする人の「心」の特徴について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：介護を必要とする人は、「日常生活にどのような心理状況になるか」整理しておく。 復習：授業内容を見直し、要点をプリントにまとめる。
	第6回	テーマ	サービス提供の基本視点①(社会との関わり)
		内 容	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、介護サービスや地域連携、フォーマルサービス、インフォーマルサービス等の社会との関わり方を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：介護が必要になると、「社会との関わりはどう変化するか」整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第7回	テーマ	サービス提供の基本視点②(共感的理解①)
		内 容	「共感的理解」について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：「共感的理解」について、保育士養成課程で学んだことを振り返り整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第8回	テーマ	サービス提供の基本視点③(共感的理解②)
		内 容	「共感的理解」についてディスカッションを行い、ディスカッションで得た情報から共感的理解の基本視点を確認する。
		授業時間外学修	予習：「共感的理解」についてディスカッションのできる準備をしておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第9回	テーマ	サービス提供の基本視点④(傾聴技術①)
		内 容	「傾聴技術」について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：「傾聴技術」について、保育士養成課程で学んだことを振り返り整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第10回	テーマ	サービス提供の基本視点⑤(傾聴技術②)
		内 容	「共感的理解」についてディスカッションを行い、ディスカッションで得た情報から共感的理解の基本視点を確認する。
		授業時間外学修	予習：「傾聴技術」についてディスカッションのできる準備をしておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第11回	テーマ	サービス提供の基本視点⑥(観察技術①)
		内 容	「観察技術」について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：「観察技術」について、保育士養成課程で学んだことを振り返り整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第12回	テーマ	サービス提供の基本視点⑦(観察技術②)
		内 容	「観察技術」について、ディスカッションを行い、ディスカッションで得た情報から

	回		ら観察技術の基本視点を確認する。
	授業時間外 学修		予習：「観察技術」についてディスカッションのできる準備をしておく。 復習：授業内容を見直し、要点をプリントにまとめる。
	第 13 回	テーマ	自己理解と他者理解①
		内 容	自己理解を行い、自分の性格傾向を確認する。
		授業時間外 学修	予習：自分の性格を分析し、他者に伝えられる準備をしておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 14 回	テーマ	自己理解と他者理解②
		内 容	自己の性格傾向と他者から見られていた自分の像から、各自の将来像を描き、プレゼンテーションを行う。
		授業時間外 学修	予習：自分の将来像を描き、それを実現するための課題を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業を振り返り、介護福祉士に求められる役割と、各自の今後の課題を明らかにする。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：今後の学びの課題を整理しておく。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験により、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、介護老人福祉施設、在宅介護に従事し介護福祉士として 17 年介護に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護の基本Ⅴ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	伊藤和雄						
ナンバリング	WFM2C07	開講時期	後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、利用者の「尊厳ある暮らし」を支えるために不可欠である安全の確保と生活を守る技術としてのリスクマネジメントについて学ぶ。実践例をもとに具体的な事故と予防対策、感染症の特性や対処方法について理解を深める。						
アクティブラーニングの実施	○			ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・利用者の安全の確保と生活を守る技術としてのリスクマネジメントを理解し、介護場面での具体的事故と予防対策についての手法を説明できる。 ・人権、権利擁護、身体拘束禁止、高齢者虐待防止、プライバシー保護といったキーワードの説明ができ、利用者の「尊厳ある暮らし」を支えるケアが説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	尊厳ある暮らしと安全の確保				
		内 容	人権という視点から尊厳ある暮らしを考え、介護における安全の確保の重要性と、介護の質の向上とリスクマネジメントの関係性について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業の全体像をイメージする。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護の質とリスクマネジメント				
		内 容	リスク回避と尊厳の保持の重要性を学び、リスクマネジメントにおける質の高いケアの実践の意義について理解する。				
		授業時間外学修	予習：介護における具体的なリスクについて、実習での体験を振り返りながら整理する。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	介護における安全の確保とリスクマネジメント①				
		内 容	介護におけるリスクマネジメントの必要性和、リスクマネジメントに必要な要素、環境づくりと正確な技術について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：「安全」の捉え方について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第	テーマ	介護における安全の確保とリスクマネジメント②				

	4 回	内 容	リスクマネジメントに必要な要素、共感・予測する力、ストレス対応、医療的リスク、信頼関係づくりについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：自分はどのような時にストレスを感じるか整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 5 回	テーマ	安全の確保と身体拘束（課題①）
		内 容	医療・介護現場で行われてきた行動制限が拘束抑制として原則禁止となった歴史的背景について学び、禁止されている身体拘束の具体的な行為と、身体拘束がもたらす身体的弊害、精神的弊害、社会的弊害について理解する。
		授業時間外 学修	予習：医療、介護現場ではどのような行為が身体拘束になり得るか考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 6 回	テーマ	緊急やむを得ない場合の対応と身体拘束の神話
		内 容	緊急やむを得ない場合の定義と緊急やむを得ず身体拘束を実施する場合の確認手続きを整理する。またエバンスらの一般的な「身体拘束の神話」についての反証を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：配布資料(エバンスらの論文「老人抑制の神話」ダイジェスト)を読む。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 7 回	テーマ	身体拘束廃止を推進するポイント
		内 容	身体拘束をせずに行うケアの原則と重要な五つの基本的ケアについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：配布資料（身体拘束をせずに行うケア～三つの原則）を読む。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 8 回	テーマ	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント
		内 容	実際の介護現場を想定した、より具体的な事故防止、安全対策を考える。組織的に事故防止、安全対策を検討するしくみや事故発生時の対応について理解する。
		授業時間外 学修	予習：代表的な介護現場の事故と生活場面で予測されるリスクをまとめる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 9 回	テーマ	生活のなかのリスクと対策①
		内 容	個々の利用者に応じた対策、安全な道具と環境、個別性の高いケアについて学ぶ。 具体的リスクとして転倒及びベッドからの転落について対策の実際について考える。
		授業時間外 学修	予習：モジュールタイプの車椅子、低床ベッドについて調べる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 10 回	テーマ	生活のなかのリスクと対策②（課題②）
		内 容	具体的なリスクとして誤嚥、誤薬の回避、防火、防災、消費者被害対策について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：嚥下の仕組みと誤嚥の機序について整理する。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 11 回	テーマ	リスクマネジメントの視点での事例検討
		内 容	事例「利用者が自分でトイレに行こうとして転倒したときの対応」を読み、課題を整理しリスクを予測、対応方法の検討を行う。

		授業時間外 学修	予習：配布資料（事例）を読み、課題を整理する。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 12 回	テーマ	生活の場と高齢者介護施設での感染対策
		内 容	生活の場の特性、在宅と集団生活における感染対策の違いについて理解し、標準予防策と感染対策の基本、高齢者介護施設における感染対策の実践について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：標準予防対策（スタンダードプリコーション）について調べる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 13 回	テーマ	感染対策とリスクマネジメント
		内 容	感染管理の重要性と、具体的な仕組みとしての感染対策委員会の設置や衛生管理について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：基本的な手洗いの方法、衛生的な手洗いの方法について調べる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 14 回	テーマ	感染対策の基礎知識と感染症発生時の対応
		内 容	感染対策の三原則と個別の感染対策を学び、感染拡大防止の取組、行政への報告、関係機関との連携について理解する。
		授業時間外 学修	予習：保育士養成課程で学んださまざまな感染症について確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ（課題③）
		内 容	グループディスカッションにて、これまでの授業の振り返りを行い、プレゼンテーションする。
		授業時間外 学修	予習：既習内容を振り返り、疑問点をまとめる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の方法・基準	課題レポート（一つにつき4時間）の3回を含め、領域「介護」に関する理解の程度（60%）、「自分で考え、実践する能力」（2）獲得の程度（25%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、確認し講評を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回30分）復習（各授業回30分）として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習（1日90分）		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の伊藤は、介護老人福祉施設で26年間介護業務、相談援助業務、介護計画作成等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 伊藤：火曜日 12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	コミュニケーション技術Ⅰ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	重吉正文、鈴木慎二						
ナンバリング	WFM1C08	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	介護実践に必要とされる情報を対象者に伝達する技術及び、家族を含めた関係者に伝達する技術を理解したい。テキストと配布資料を用いて、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉専門職としてのコミュニケーション能力と態度を養う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・介護におけるコミュニケーションの意義と目的を説明できる。 ・チームにおけるコミュニケーションの意義と目的、種類を説明できる。 ・チームアプローチに必要なコミュニケーションの種類や方法を説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	介護を必要とする人のコミュニケーション① (担当 鈴木)				
		内 容	なぜコミュニケーションを学ぶのか。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護を必要とする人のコミュニケーション② (担当 鈴木)				
		内 容	本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：コミュニケーションを図るときに大切にしていることを整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	介護におけるコミュニケーション (担当 鈴木)				
		内 容	介護職が必要な人とのコミュニケーションを妨げる要因と技術について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護職と家族とのコミュニケーション場面での留意点を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	介護における家族とのコミュニケーション (担当 鈴木)				
		内 容	介護職に求められる家族とのコミュニケーションの基本について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護が必要な人とコミュニケーションを妨げてしまう場面(状況)を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第	テーマ	「話をする。話を聞く」とは① (担当 鈴木)				

	5 回	内 容	「話をする事」「話を聞く事」について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：日頃、話をする時に大切にしていることを整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
		テーマ	「話をする。話を聞く」とは② (担当 鈴木)
	第 6 回	内 容	聞き手の留意点、感情表現を察するために必要なことについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：話を聞く時に大切にしていることを整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
		テーマ	聴き上手とは (担当 鈴木)
	第 7 回	内 容	傾聴技術の基本姿勢について学ぶ。ロールプレイを行う。
		授業時間外 学修	予習：ロールプレイの準備を行う。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
		テーマ	質問技法 (担当 重吉)
	第 8 回	内 容	質問をする際の留意点と質問の種類について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：質問をする際の留意点と質問の種類について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
		テーマ	バイスティックの7原則について (担当 重吉)
	第 9 回	内 容	基本的な援助技術であるバイスティックの7原則について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：保育士養成課程で学んだバイスティックの7原則について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 10 回	テーマ	まとめ① 課題提出(小テスト) (担当 重吉)
		内 容	これまでの授業の振り返りと小テストを行う。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業で学んだことを課題提出(小テスト)に向けて確認、整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 11 回	テーマ	利用者の意欲を引き出す方法 (担当 重吉)
		内 容	利用者の意欲を引き出すコミュニケーション技術について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：介護実習Ⅰ－①を振り返り、利用者の意欲を引き出す場面でのコミュニケーション技術を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 12 回	テーマ	障害の特性に応じたコミュニケーション① (担当 重吉)
		内 容	コミュニケーション障害について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：介護実習Ⅰ－①を振り返り、コミュニケーションにどのような影響を及ぼしていた利用者がいたか、具体的事例を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 13 回	テーマ	障害の特性に応じたコミュニケーション② (担当 重吉)
		内 容	身体的、精神的からコミュニケーションに影響をきたす利用者像について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：諦めないコミュニケーション技術について学ぶ。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第	テーマ	介護におけるチームのコミュニケーション (担当 重吉)

	14 回	内 容	情報を適切にまとめ発信するために、介護実践における情報の共有化の意義と方法、情報の管理について学び、中核的な役割を発揮する能力について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：介護実習Ⅰ－①を振り返り、チームで情報を共有するためにどのような方法をとっていたか整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ① 課題提出(小テスト) (担当 重吉)
		内 容	これまでの授業の振り返りと小テストを行う。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業で学んだことを課題提出(小テスト)に向けて確認、整理しておく。 復習：授業内容を見直し、後期の学びに向けた学習課題を整理してノートにまとめる。
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」(中央法規出版) 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士国家試験対策全巻(中央法規出版)		
成績評価の 方法・基準	2 回の課題提出(小テスト)により、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(4)の獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	2 回の課題提出(小テスト)については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の重吉は、障害者支援施設と介護老人福祉施設で 38 年間、支援員、施設長等の実務に従事していた。 担当教員の鈴木は、介護事業所や高齢者施設で支援員、ケアマネ、生活相談員等の実務に従事していた。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先(質問等)	授業前後に、教室で質問を受け付ける。		

授業科目	コミュニケーション技術Ⅱ			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	金須雄一						
ナンバリング	WFM2C09	開講時期	後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	グループディスカッションを多く取り入れ、日常生活の中で利用者の心にゆとりの得られるコミュニケーション技術を習得し、話す、聞く楽しさを体験し、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・介護を必要とする人の理解と、利用者の心身の状況に応じたコミュニケーションの技法の理解について、事例を交えて整理して説明できる。 ・コミュニケーションを通して、利用者の生活に安全と安らぎをもたらし、信頼の得られる能力を身につける。 ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	介護におけるコミュニケーション技術①				
		内 容	前期コミュニケーション技術Ⅰで学んだことの振り返りを行い、介護におけるコミュニケーションの意義と目的を確認する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業イメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護におけるコミュニケーション技術②				
		内 容	前期コミュニケーション技術Ⅰで学んだことの振り返りを行い、介護を必要とする人とのコミュニケーション技術の留意点を確認する。				
		授業時間外学修	予習：前期授業を振り返り、各自のコミュニケーション技術の課題を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	介護における家族とのコミュニケーション①				
		内 容	家族の置かれている状況や場面を理解し家族の支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を学ぶ内容とする。				
		授業時間外学修	予習：家族は、どのようなニーズや悩みを抱えているか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	介護における家族とのコミュニケーション②				
		内 容	事例を示し、グループディスカッションを行い、それに対応するコミュニケーション技術の留意点を探る。				

		授業時間外 学修	予習：前回の授業で示した事例に対して、各自留意点等を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 5 回	テーマ	「指導、助言、注意」①
		内 容	「指導、助言、注意」とはどのようなもののかについて、グループディスカッションを行う。
		授業時間外 学修	予習：これまでどのような場面で、指導されたこと、助言されたこと、注意されたことについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 6 回	テーマ	「指導、助言、注意」②
		内 容	「指導、助言、注意」の区別について、グループごと発表を行う。
		授業時間外 学修	予習：グループごとに発表できる準備を行う。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 7 回	テーマ	「納得と説得」①
		内 容	「納得と説得」の区別について、グループディスカッションを行う。
		授業時間外 学修	予習：「納得」した時の自分と、「説得」された時の自分の心理状況を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 8 回	テーマ	「納得と説得」②
		内 容	「指導、助言、注意」の区別について、グループごと発表を行う。
		授業時間外 学修	予習：グループごとに発表できる準備を行う。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 9 回	テーマ	「誉める」
		内 容	「誉める」技術
		授業時間外 学修	予習：「誉められたとき」の心情はどうか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 10 回	テーマ	コミュニケーションと人間関係
		内 容	介護におけるチームのコミュニケーションと人間関係について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：人間関係をよく保つには、どのような努力をしていたか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 11 回	テーマ	「優先順位」①
		内 容	介護場面や介護過程では優先順位は重要な視点である。このことに対して、価値観と結び付けて、それぞれの価値観の違いの受け止め方と、その違いをどう整理してコミュニケーションを図りながらチームとして支援していくか、その関わり方について、グループディスカッションを中心にして学ぶ。まずは、各自の8つの優先順位について考えさせる。
		授業時間外 学修	予習：価値観、物の見方、考え方はなぜ時として違うことになるのかについて、整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 12	テーマ	「優先順位」②
		内 容	各自が考えた8つの優先順位について、グループのメンバーに説明する。

	回	授業時間外学修	予習：グループのメンバーに説明できる準備を行う。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第13回	テーマ	「優先順位」③
		内 容	十分意見を交換したら、理由をつけてグループ内の優先順位をまとめる。
	回	授業時間外学修	予習：メンバーとディスカッションのできる準備を行う。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
		第14回	テーマ
	回	内 容	各グループの決定した優先順位の発表を行い、ディスカッションを行ってどうであったかも含めて発表する。
		授業時間外学修	予習：グループごとに発表できる準備を行う。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第15回	テーマ	まとめ 話をする、話を聞くことが楽しいと感じられるようになったかどうか
		内 容	コミュニケーション技術の授業を通して、話をする、話を聞くことが楽しいと感じられるようになったかどうかの確認を行い、今後の各自のコミュニケーションの課題を明らかにする。
		授業時間外学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第16回		定期試験	
教科書・テキスト		介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。	
参考書・参考資料等		介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）	
成績評価の方法・基準		定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法		定期試験については、採点后講評を行う。	
授業時間外学修		予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)	
備 考		実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の金須は、介護老人福祉施設、在宅介護で 17 年間介護福祉士として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。	
連絡先（質問等）		オフィス・アワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。	

授業科目	生活支援技術 I			授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	宮地康子、松田水月、金須雄一						
ナンバリング	WFM1C10	開講時期	前期	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、尊厳保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立と意思を尊重し、個々人の持っている潜在能力や残存機能を引き出したり、維持したりしながら適切な介護技術を用いて基本的な技術を理解する。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術について説明できる。 ・対象者の自立に向けた生活支援について、説明できる能力を身につける。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」能力を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	生活支援の理解① (担当 金須・宮地・松田)				
		内 容	生活支援の基本的な考え方を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 2 回	テーマ	生活支援の理解② (担当 金須・宮地・松田)				
		内 容	I C F の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。				
		授業時間外学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 3 回	テーマ	自立に向けた居住環境の整備① (担当 金須・宮地・松田)				
		内 容	住まいの多様性を理解し、自立支援のための居住環境の整備について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読み、自立に向けた居住環境について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第 4 回	テーマ	自立に向けた居住環境の整備② (担当 金須・宮地・松田)				
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた環境整備の技術を習得する。				
		授業時間外学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第	テーマ	自立に向けた身じたくの介護① (担当 金須・宮地・松田)				

	5 回	内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための身じたくに関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた身じたくの介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 6 回	テーマ	自立に向けた身じたくの介護②（担当 金須・宮地・松田）
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
	第 7 回	授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
		テーマ	自立に向けた移動の介護①（担当 金須・宮地・松田）
	第 8 回	内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための移動に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた移動の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 9 回	テーマ	自立に向けた移動の介護②（担当 金須・宮地・松田）
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
	第 10 回	授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
		テーマ	自立に向けた食事の介護①（担当 金須・宮地・松田）
	第 11 回	内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための食事に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた食事の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 12 回	テーマ	自立に向けた食事の介護②（担当 金須・宮地・松田）
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
	第 13 回	授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
		テーマ	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①（担当 金須・宮地・松田）
	第 14 回	内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための入浴に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた入浴の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②（担当 金須・宮地・松田）
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
	第 16 回	授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。

	第 13 回	テーマ	自立に向けた衣服の着脱の介護① (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための入浴に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた衣服の着脱の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 14 回	テーマ	自立に向けた衣服の着脱の介護② (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
		授業時間外学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	自立に向けた排泄の介護① (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための排泄に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた排泄の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 16 回	テーマ	自立に向けた排泄の介護② (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
		授業時間外学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 17 回	テーマ	休息・睡眠の介護① (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための休息・睡眠に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、自立に向けた休息・睡眠の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 18 回	テーマ	休息・睡眠の介護② (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた技術を習得する。
		授業時間外学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 19 回	テーマ	災害時における介護① (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	災害時における介護福祉士の役割について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、災害時の介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 20 回	テーマ	災害時における介護② (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	災害時における介護の実際について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第	テーマ	人生の最終段階における介護① (担当 金須・宮地・松田)

	21 回	内 容	人生の最終段階における介護について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、人生の最終段階における介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
		第 22 回	テーマ 人生の最終段階における介護② (担当 金須・宮地・松田)
	第 22 回	内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 23 回	テーマ	自立に向けた家事の介護① (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための家事に関する基礎的な知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、家事における介護について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 24 回	テーマ	自立に向けた家事の介護② (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	前回の授業を踏まえ、実践の根拠に基づいた知識・技術を習得する。
		授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 25 回	テーマ	応急手当の知識と技術① (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	基本的な応急手当について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読み、応急手当について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 26 回	テーマ	応急手当の知識と技術② (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	介護現場における応急手当・緊急時対応の実践について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：前回の授業内容を振り返り、理解不足している点について整理してくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 27 回	テーマ	福祉用具の意義と活用 (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	福祉用具の活用の意義、種類や公的制度における福祉用具サービスについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 28 回	テーマ	感染症の予防と対策 (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	高齢者が罹りやすい感染症や感染経路、感染症の標準予防策やワクチン接種といった感染症の予防について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：保育士養成課程で学んだ感染症について振り返り、配布資料を呼んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 29 回	テーマ	介護従事者の心身の健康 (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	介護従事者の健康管理や労働環境の管理について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。

	第 30 回	テーマ	まとめ (担当 金須・宮地・松田)
		内 容	これまでの授業を振り返り、今後の学習へつなげるようまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習：これまでの学習を振り返り、理解不足の点を整理してくる。 復習：後期の学びに向けた学習課題を整理しておく。
	第 31 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容を理解するプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（25%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験採点后、講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設にて 9 年間看護師として業務に従事した実務経験を持つ。 担当教員の松田(水)は、病院、公的機関に 9 年間看護師、保健師として業務に従事した実務経験を持つ。 担当教員の金須は、介護老人福祉施設、在宅介護に従事し介護福祉士として 17 年間介護に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	生活支援技術Ⅱ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	宮地康子						
ナンバリング	WFM1C11	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	居住の整備・福祉用具・家事の介護の領域から、それらを中心として介護との関係性を理解しながら、利用者の穏やかな生活を導き出していく援助のあり方を学び、テキストと参考資料を用いて、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・高齢者の生活の状況を説明できる。 ・居住の整備、生活支援、介護に活かすことができる視点を説明できる。 ・身だしなみ、整容といった観点から、個々人の生活の潤いや社会との繋がりまでを説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	住まいの役割と機能				
		内 容	住まいの役割について理解する。				
		授業時間外学修	予習：住まいの大切さについて考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	生活空間				
		内 容	住まいの役割を理解する。				
		授業時間外学修	予習：生活空間を整備する際の留意点を理解する。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	快適な室内環境				
		内 容	住まいの維持・管理の必要性和ポイントを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護施設での住まいの役割に関して印象をイメージしておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	安全に暮らすための生活環境				
		内 容	住宅内の安全ポイントをグループディスカッションを通して学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：身体状況に応じた安全な介護に適した住宅について考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第5回	テーマ	福祉用具				
		内 容	福祉用具の定義・範囲を理解する。				
		授業時間外学修	予習：福祉用具にはどのようなものがあるか確認しておく。				

		学修	復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第6回	テーマ	家事の介護①
		内 容	家事の重要性について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：日常生活上で家事にはどのようなものがあるか確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第7回	テーマ	家事の介護②
		内 容	調理・洗濯の介護について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：調理・洗濯のポイントを確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第8回	テーマ	家事の介護③
		内 容	掃除・裁縫の介護について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：掃除・裁縫のポイントを確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第9回	テーマ	家事の介護④
		内 容	衣服・寝具の介護について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：衣服・寝具のポイントを確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第10回	テーマ	家事の介護⑤
		内 容	買い物・家庭経営について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：買い物・家庭経営のポイントを確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第11回	テーマ	応急手当について
		内 容	高齢者に起こりやすい事故や緊急時の対応について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：応急手当について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第12回	テーマ	介護と家政学との関係性を確認する
		内 容	介護と家政学の関係性を確認する。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第13回	テーマ	国家試験対策①
		内 容	これまで学んだ分野の国家試験内容を確認する。
		授業時間外 学修	予習：国家試験問題集を確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第14回	テーマ	国家試験対策②
		内 容	これまで学んだ分野の国家試験内容を確認する。
		授業時間外 学修	予習：国家試験問題集を確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第15回	テーマ	国家試験対策③
		内 容	これまで学んだ分野の国家試験内容を確認する。

	回	授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：後期の授業への課題を明確にして、専門職者としての能力を高める。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験により、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 1.5 時間)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 宮地：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	生活支援技術Ⅲ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	阿部伸一						
ナンバリング	WFM1C12	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	視覚障害者の自立を可能にするための支援の考え方、あり方について理解し、介護福祉士のあるべき姿を理解したい。テキストと演習を中心に授業を行う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・視覚障害者について説明できる。 ・視機能について説明できる。 ・視覚障害者の「心」を重視できる能力を身につける。 ・視覚障害者の特性に応じた介護についての説明ができる。 ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	視覚障害者の生活支援				
		内 容	視覚障害者の心得について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業イメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	「ものが見える」ということ				
		内 容	眼の疾患について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキスト等から「眼の仕組み」について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	視覚機能とその障害の理解				
		内 容	視機能の程度と等級について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキスト等から「視機能」について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	視覚障害者の生活や行動における不自由さの理解①				
		内 容	視覚に障害があると「生活」にどのような不自由さが生じるかについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：視覚に障害があると「生活」にどのような不自由さが生じるか整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第5回	テーマ	視覚障害者の生活や行動における不自由さの理解②				
		内 容	視覚に障害があると「行動」にどのような不自由さが生じるかについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：視覚に障害があると「行動」にどのような不自由さが生じるか整理しておく。				

		学修	復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第6回	テーマ	視覚障害者の生活や行動における不自由さの理解③
		内 容	視覚障害者の生活や行動における不自由さへの支援の留意点について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：視覚障害者への支援の留意点について考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第7回	テーマ	中途障害者の理解
		内 容	中途障害者となる要因とその概要について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：「中途障害者とは」について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第8回	テーマ	情報入手手段としての点字①
		内 容	情報手段の一つ、「点字」について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：「点字」について、可能な範囲で調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第9回	テーマ	情報入手手段としての点字②
		内 容	点字器を使用して文章をつくる。
		授業時間外学修	予習：点字で使用する五十音について確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第10回	テーマ	盲学校見学と体験学習①
		内 容	盲学校見学、生徒との交流を行う。
		授業時間外学修	予習：盲学校について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第11回	テーマ	盲学校見学と体験学習②
		内 容	盲学校見学、生徒との交流を行う。
		授業時間外学修	予習：盲学校について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第12回	テーマ	視覚障害者の生活環境の整備①
		内 容	「生活環境の整備」の視点と留意点について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：バリアフリーを含めた住環境の整備について考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第13回	テーマ	視覚障害者の生活環境の整備②
		内 容	社会資源(シンボルマーク等)について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：街で見かける障害者に関するシンボルマークを整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第14回	テーマ	視覚障害者の生活支援の視点
		内 容	食事を例にとり、食事援助方法を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：視覚障害者への食事援助ではどのようなことに注意が必要か考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第15回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業を振り返り、視覚障害者への支援の留意点を確認する。

	回	授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：今後の学習課題を明確にしておく。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験により、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、盲学校において 7 年間教員の実務に従事していた。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室で質問を受け付ける。		

授業科目	生活支援技術Ⅳ			授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	楠本健二						
ナンバリング	WFM1C13	開講時期	前期	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	「食」の重要性を理解し、必要な知識と調理技術を理解したい。講義と演習(調理実習)を織り交ぜて授業を進めていく。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・ 食べることの意味、必要性を説ける。 ・ 基礎となる調理技術を身につける。 ・ 自分の「食」を見直すとともに、介護福祉士としての役割を「食」の観点から、自信と思いやりのある心で食事援助のできる能力を身につける。 ・ 「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	自立に向けた家事の介護				
		内 容	食生活について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	生活支援と食事の介護				
		内 容	生活支援における食事の持つ意味と役割				
		授業時間外学修	予習：生活と食事の関係を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	身体機能と栄養①				
		内 容	身体機能と栄養について、栄養素を中心に学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：どのような栄養素があるか整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	身体機能と栄養②				
		内 容	身体機能と栄養について、消化吸収を中心に学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：どのような仕組みで消化は吸収されるのか調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第5回	テーマ	高齢者、障害者の栄養①				
		内 容	献立を準備するので、調理のイメージをグループごとに組み立てる。				

	回	授業時間外 学修	予習：調理実習の準備 復習：業内容の要点をノートにまとめる。
	第 6 回	テーマ	高齢者、障害者の栄養②
		内 容	献立に沿った調理を行う。
		授業時間外 学修	予習：調理実習の準備 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 7 回	テーマ	高齢者、障害者の栄養③
		内 容	実食しながら感想、反省を行う。
		授業時間外 学修	予習：調理実習の準備 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 8 回	テーマ	食品の成分
		内 容	食品の成分について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：日頃、どんな成分の食事を意識して食べているか整理してみる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 9 回	テーマ	食品の保存、管理
		内 容	食品の保存方法、管理方法について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：各自の食品保存や管理についての問題点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 10 回	テーマ	食品の安全
		内 容	食中毒について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：食中毒にはどんな種類があるか調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 11 回	テーマ	献立と調理
		内 容	献立の立て方と調理の仕方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：一日前に摂取した自分の献立を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 12 回	テーマ	調理器具と設備
		内容	調理器具(衛生管理も含む)と設備について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：各自が使用している調理器具について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 13 回	テーマ	生活習慣病に必要な食事の知識①
		内 容	生活習慣病にはどのような食事の配慮が必要か、疾病ごとに学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：生活習慣病について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 14 回	テーマ	生活習慣病に必要な食事の知識①
		内 容	生活習慣病にはどのような食事の配慮が必要か、疾病ごとに学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：生活習慣病について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第	テーマ	特別食の調理(高血圧症①)

	15回	内 容	高血圧症に適した食事について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：献立に対しての調理方法を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第16回	テーマ	特別食の調理(高血圧症②)
		内 容	調理実習
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過をイメージし、注意点、留意点を考えておく。 復習：調理の場面を振り返り要点をノートにまとめる。
	第17回	テーマ	特別食の調理(高血圧症③)
		内 容	実食しながら感想、反省を行う。
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過をしっかりと振り返り、感想、反省を行う。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第18回	テーマ	特別食の調理(心臓病①)
		内 容	心臓病に適した食事について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：献立に対しての調理方法を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第19回	テーマ	特別食の調理(心臓病②)
		内 容	調理実習
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過をイメージし、注意点、留意点を考えておく。 復習：調理の場面を振り返り、要点をノートにまとめる。
	第20回	テーマ	特別食の調理(心臓病③)
		内 容	実食しながら感想、反省を行う。
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過を振り返り、感想、反省を行う。 復習：授業内容を見直し、要点をノートにまとめる。
	第21回	テーマ	特別食の調理(糖尿病①)
		内 容	糖尿病に適した食事について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：献立に対しての調理方法を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第22回	テーマ	特別食の調理(糖尿病②)
		内 容	調理実習
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過をイメージし、注意点、留意点を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第23回	テーマ	特別食の調理(糖尿病③)
		内 容	実食しながら感想、反省を行う。
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過を振り返り、感想、反省を行う。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第24回	テーマ	特別食の調理(脂質異常症①)
		内 容	脂質異常症について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：献立に対しての調理方法を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。

	第 25 回	テーマ	特別食の調理(脂質異常症②)
		内 容	調理実習
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過をイメージし、注意点、留意点を考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 26 回	テーマ	特別食の調理(脂質異常症③)
		内 容	実食しながら感想、反省を行う。
		授業時間外 学修	予習：調理実習経過を振り返り、感想、反省を行う。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 27 回	テーマ	介護に適した介護食
		内 容	その他の症状、状態像(嚥下)に適した食事形態について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：食事摂取に困難を生じる原因、状態像について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 28 回	テーマ	知っておきたい食事計画
		内 容	なぜ食事計画が必要なのかについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：「食事計画とは」について調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 29 回	テーマ	安心、安全な食事の提供の視点
		内 容	安心かつ安全な食事を提供するための視点について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、「安心かつ安全な食事の提供をしていくための視点」について考えておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 30 回	テーマ	まとめ (課題)
		内 容	「自立に向けた食事の介護」について確認する。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業から、「自立に向けた食事の介護」について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	課題と調理実習評価(調理実習評価は、その都度行う)により、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	調理実習評価については、その都度講評を行い、課題については採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	授業を行うにあたり調理実習費の材料費として 1 人 2,000 円を徴収します。		
連絡先(質問等)	授業前後に、教室で質問を受け付ける。		